

5 4 3 2 1 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

JAPAN

Tanaka

5 4 3 2 1 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

繪本通俗三國志

八編 三

21
221
73



於
22/1
73

東方先生
學林編

西漢書

目錄

繪本通俗三國志八編卷之二

鄧艾鍾會破漢中

姜維大戰劍門關

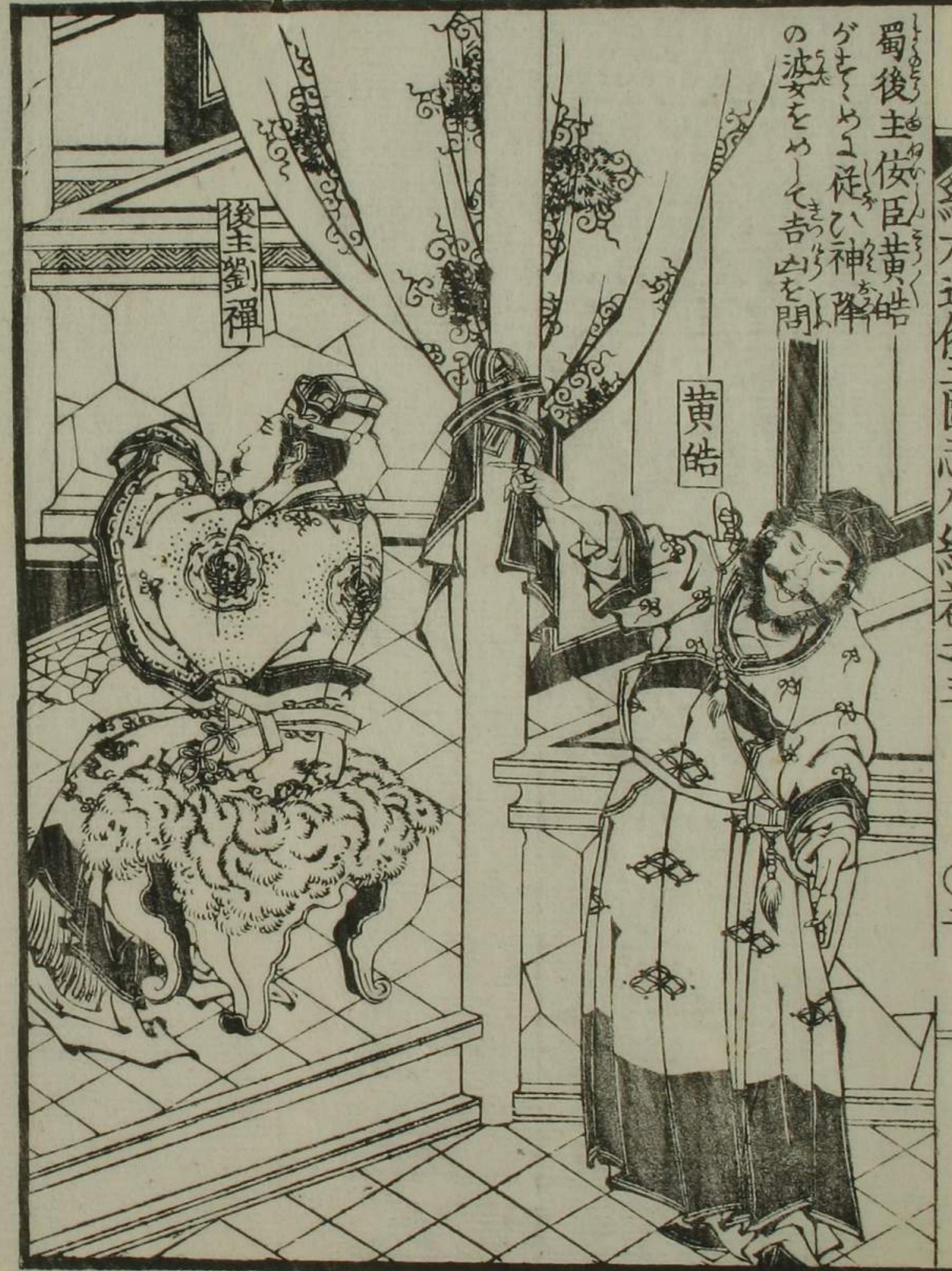
鄧艾越嶺襲成都

繪本通俗三國志八篇卷之三

去程より鍾會へもろくの大將を集りて軍の訴議を
るーリかよ大將よへ田續。龐會。田章。爰彰。丘建。王買。夏
侯威。皇甫闡。勾安等を宗徒乃ちのとして八十餘人
護軍胡烈。監軍衛瓘。とあ帳下よりりと。鍾
會。ヤル。然ふべき。先手の大將を定め。山。とあくべて
へ路をひらうせ。水の渡。よへ橋をうけさせ。大軍跡
志たゞいと。進まへりん。誰人。うたの職。よあくらんと。
尋ねりと。列座の中より一人。さくみ生。某。ねがへくも。
先鋒たらんと云りと。諸人。敬馬ひて是を見る。虎

侯新褚子許儀と猛將。滿坐一同。まほの人に
あらんべ叶すと云りて、鍾會よりへ汝の虎体猿
班の将として父子ともよ名を得たり。諸将も一同。汝も
や叶ふとひよ汝先鋒の印とひけて五千余騎と一千人
の歩武者と領し。直に漢中と進んで三手と分。汝中軍
と引て斜谷より上左備と駿谷より上右備と子午谷よ
り生せ此路ひげども險阻艱難の地ち。汝兵と下知く
山とあみて石を破水と臨んで橋と累石と少く怠ら
むるとあられといひりとへ許儀令と受て真先と進む鍾
會十万余騎と率いて己と百官も遠く送
りて是とて汝の旌旗日と蔽ひ鎗戈霜と凝る人強く馬

壯威風凜しなり。人あきと羨むとりよりのま。中
又相國參軍劉寔とりよも冷笑ひて立りて大尉王祥
見て怪しく馬上とて問て曰く。今鄧艾鍾會兩大將し
て戦ふむえ必ず功を成んとあらゆる。劉寔答て曰く。
あらび戦と滅ぼれども二人とも再び都と回ることを
得ト。王祥と故を問ふ。劉寔たゞ打笑ひて答へ。と
狂人あうとて強て問を。百官と共に回り。去程と征西
將軍鄧艾へ兼て隴西と居たり。司馬昭が命を受く
まば司馬望を西羌の國と下して胡の勢を集させ雍州の
刺史諸葛緒天水の大守王傾隴西の太守楊欣。おが勢を催
一日と経て雲霞の下に集り。一ヶ月を採んで打立と



を。鄧艾ある夜の夢。又高き山。又上て漢中を直下。又俄々脚の下より泉をどぐり出で水の勢ひ高く湧上ると。こくて打驚き遍身。又汙を流して。次の日殄虜護衛綏邵とて周易を志門たるもの。召夢の吉凶を占せり。且緩邵曰く。易。又山上。有水曰蹇。蹇利西南不利東北。とのべ。孔子の曰く。蹇へ利西南。とへ往有功あり。不利東北。とへ其道窮あり。是よりて按。大將軍。又。魏。下。と。能。下。と。ひ。功。せ。立。き。ん。但。惜。く。へ。蹇。滞。と。圓。す。と。能。下。と。ひ。功。と。之。鄧艾。撫然。と。心。喜。ぞ。己。又。暮。又。及。ん。で。鍾會。方。よ。檄。文。き。たり。共。又。進。ん。で。漢。中。よ。て。出。合。ん。と。告。り。鄧艾。い。そ。だ。手。配。を。定。り。雍。多。の。刺。史。諸。葛。緒。又。一。万。五。千。余。騎。を。付。て。甘。松。よ。り。生。て。姜。維。が。後。て。攻。さ。せ。我身。三。万。の。精。兵。を。引。て。跡。又。志。な。行。て。進。發。を。浩。氣。を。諸方の早馬急を告て。漢中上と下へと騒動を。姜維。沓中。又在て。此よ。と。ま。急。ぎ。成。都。又。表。と。上。り。左。車。騎。將。軍。張翼。又。陽。平。閑。と。守。らせ。右。車。騎。將。軍。廖。化。又。陰。平。橋。セ。守。ら。せ。り。ぐ。べ。此。ニ。う。れ。第一。の。要。害。よ。と。若。失。あ。ると。な。漢。中。尽。く。破。し。ん。又。吳。の。國。よ。使。と。え。せ。て。枚。の。勢。と。も。と。り。ま。臣。み。げ。く。ら。沓。中。の。勢。と。引。て。敵。と。支。し。ん。と。奏。一

騎と付て。姜維。又。蜀。路。を。塞。せ。天。水。の。太。守。王。頤。又。一。万。五。千。余。騎。と。付。て。左。よ。り。沓。中。と。攻。さ。せ。陼。西。の。太。守。牽。弘。又。一。万。五。千。余。騎。と。付。て。右。よ。り。沓。中。と。攻。さ。せ。金。城。の。太。守。楊。欣。又。一。万。五。千。余。騎。と。付。て。甘。松。よ。り。生。て。姜。維。が。後。て。攻。さ。せ。我身。三。万。の。精。兵。と。引。て。跡。又。志。な。行。て。進。發。を。浩。氣。を。諸

る。とたゞ後主劉禪。ハ景耀五年。セ炎貞元年。ト改。姜維。表。セ。而。テ。大。ニ。驚。た。昏。絶。シ。テ。地。ニ。倒。シ。モ。ハ。ル。ガ。半。時。ち。り。あ。り。て。甦。リ。例。の。黄。皓。を。召。て。今。魏。の。大。將。鄧。艾。鍾。會。大。軍。を。引。て。攻。來。リ。姜。維。表。と。上。て。急。シ。告。い。ふ。を。乞。と。問。り。人。ベ。黄。皓。が。曰。く。是。尽。く。詐。あ。う。何。故。エ。姜。維。が。ナ。ト。セ。実。あ。う。ト。お。ど。ろ。う。セ。キ。ビ。是。ミ。ヌ。ト。ま。での。リ。も。ち。え。ヌ。己。が。高。名。エ。備。ん。と。テ。表。奏。セ。ル。リ。の。ヘ。幸。エ。成。都。の。内。ヌ。年。老。た。る。神。降。の。波。女。あ。ウ。神。と。供。難。シ。ト。よ。吉。凶。セ。志。承。急。ア。リ。リ。の。て。ら。ー。と。問。り。人。カ。シ。ー。川。モ。違。ヒ。ヘ。ド。後。主。あ。ミ。エ。主。た。が。ひ。後。殿。エ。香。華。セ。備。ヘ。燈。燭。セ。陳。祔。祭。セ。設。て。彼。波。女。セ。車。エ。の。せ。て。宮。中。エ。精。ド。龍。床。の。上。エ。坐。セ。ー。タ。後。

主。み。れ。が。ら。香。セ。焚。て。再。持。レ。右。の。事。セ。告。又。ベ。彼。婆。エ。又。髪。セ。乱。レ。跣。足。ス。テ。殿。中。セ。躍。リ。廻。シ。ト。松。百。遍。又。床。ノ。上。ス。盤。旋。セ。黄。皓。奏。レ。テ。曰。く。お。ど。と。ち。ち。神。の。乘。移。ラ。セ。キ。之。傍。の。人。セ。あ。う。び。ケ。テ。自。ら。祈。念。レ。シ。冬。レ。後。主。お。れ。主。た。が。ひ。左。右。の。人。セ。尽。く。追。退。ケ。再。持。レ。テ。祈。タ。ベ。ラ。の。波。女。喘。涸。た。る。色。エ。テ。ヤ。リ。ク。ハ。我。ハ。蜀。の。國。の。地。神。ヘ。陸。下。な。太。平。セ。樂。レ。ム。何。ぞ。外。ニ。祈。ト。あ。ら。ん。魏。の。國。モ。松。年。乃。内。ニ。尽。く。滅。ぎ。シ。争。う。其。の。國。セ。攻。る。ト。セ。る。人。只。心。セ。安。ド。テ。遊。ベ。樂。リ。冬。レ。ヒ。訖。リ。地。ニ。倒。シ。テ。絶。入。ル。ダ。半。時。モ。う。り。一。て。甦。リ。ク。ク。後。主。う。だ。り。ち。喜。バ。タ。ヒ。神。の。御。告。あ。ん。の。疑。う。め。ら。ん。と。テ。姜。維。ガ。表。セ。用。ヒ。シ。ハ。金。百。

兩錦百疋を。うの波文と賜ひ日夜酒宴との志よりはる。是より
て姜維かひく早馬をりて急を告る。黄皓を宣を
藏して天子をもよ知りて称べ諸方の合図尽く相違し
て。うたてられ鄧艾へ歎力を讃へて姜維と合戦を始む
る。由きらん。鎮西將軍鍾會にてぎとの間。漢中と
攻破しとて大軍備を推て進發を。先手の大將許儀へ
勇猛ちりと父。又劣らぬりのちるゆ。今度第一の先陣と
定やられ己が手柄を顯さんたら。真先と進んだりけ
る。一の山ゆ。南鄭関と名付。蜀の大將盧遜と云も
の。五百余騎とて固たりと。先との不と一息。又踏
破ととて諸軍を下知して上り。此關へ漢中第一の難所

みて門の前。細き橋を渡して下へ岩石峭たる深き谷へま
と。又一夫ありと守り。万夫も通りがたき不あらず。とく
敵の寄るとて矢倉の上。孔明が秘傳の連弩ともう。
鎌。も。毒をぬりて一張。又十條の矢を放り。魏の勢もるる
の坂とて。門の前。又近付り。盧遜見をす。て合
図の桺子と鳴き程みて。放千の弩を。門を放て。その
矢雨。すり。も。魏の勢あへて。さへ急。又退り。と。そ
る。木。大木。大石。と轉り。けたり。と。火を。のれを。知
た。谷の底。又落て微塵。す。許儀。案。相違して鍾會
前。又生。の。閑。と通る。と叶。ま。と。といひ。と。鍾會。も。から
百騎を。うり。と。引て來見。の。閑の上。より射下を。矢雨よ

りゆ志（シ）げり急（マチ）に退（タク）くと城の上（アベ）。望（ミコト）く、
盧遜五百余騎を率（セツ）て切（カツ）て下（アキ）る。鍾會大（ヒロシマ）もどろき。
馬を打（ウケ）て走（ハス）りるが土橋（ツブリ）をもぐる。又馬の蹄（ヒヅル）うち入（アガム）て
屏風（カーテン）をたどりとくよ倒（トドケ）り。急（マチ）に飛（ヒバク）下（アキ）。赤立（アカタチ）と
あひて走（ハス）り。盧遜は近く追付（ツイフ）。ちくや討（トドケ）とりと見へ
所を射（ザシテ）り。馬（マサニ）倒（トドケ）り落（ハラカシ）て死（マミナシ）。鍾會もととて。
勢（ハサカ）ひふの内で攻上（アガム）こと下知（シラシ）して大軍を一度も進や（アシヤク）。を。
蜀の大將を討（トドケ）て弩（ヌイ）を放（ハス）ひまく尽（ハシマム）く散乱（サンラン）。
蜀の魏の大將を討（トドケ）て弩（ヌイ）を放（ハス）ひまく尽（ハシマム）く散乱（サンラン）。
鍾會は荀愷（シムカイ）を敵の大將を射て我を救ひ功を賞（シメル）。

て護軍大將を進ら。鞍置馬を鎧一領とて与へ。リ首を荀
愷（シムカイ）拜謝（エイセイ）して面目。身もあらずてぞ見へたり。次に許儀と
召でやる。汝先手の大將を望む。我再三成山（ヨウジマ）を遇
てへ路を開き水も遇てへ橋をうけ後陣の蜀を帶らしむるこ
とあらと云ふ。我よりくよ橋をもぐり馬の蹄（ヒヅル）うち入て己
と敵を討（ハシメテ）。荀愷（シムカイ）が力も依て辛き命と逃（ハマリ）た。す。
とえ諸大將を告て曰く。許儀が罪また重とせども彼
が父許褚（シムヂュウ）は朝廷を功勞多く。その名世（エイセイ）上（アゲル）に悪（アシキ）す。
荀愷（シムカイ）を許儀（シムカイ）と扶け。甘露の敵陣を破りてのち功を
あひて罪を補（ハシメル）。鍾會怒てやる。鍾會怒て
軍中の法を私を

からだ。我し司馬晋公の命と背くべ生て。よも置ゆべ。き
くとて卒々首を斬せりとび諸軍とま震ひ怖る鍾會へそ
ぎ兵を進め息をも絶せば攻入且つ諸人の心安らば。恨
むるもの多り。蜀の大將王含は樂城を守り。蔣斌は
漢城を守り。城ごと五千の勢あり。魏の大勢もよと
ひて。麾下よりて出合を。此よりて鍾會をもうち前軍李輔
又命ドて。樂城を囲せ。護軍荀愷も命ドて。漢城を囲せ。諸
將も下知して。やるべ。兵貴神速。とく。敵の備えきもの
て速くよそじにて。陽安關も攻くる。此關も蜀の大將
蔣舒。傅僕一人よりて。蜀の勢も。敵をとで。攻來ると
やく。魏の勢。二十万もあると。すゑよべ。中へ出で。勝負へ
ゆく。

うちよは。只よく守りて拒べ。傅僕曰く。いやく。魏の勢。
おりとり。ども遠路の疲と武者も程のゆう。あらぐき。
若上て戦ひ。もんを。樂城も漢城も。忽ち。破る。蒋舒心
いよど。決せを。いふを。べきと論たる。魏の勢も。門外も
攻來も。と。げやた。りと。急ぎ。矢倉も。上て。つる。鍾會
鞭とあげて。よび。り。ろへ。我今十ヶの勢を。引て。あ。よきたる。
汝ホリ。速く降らべ。味方も用ひん。若迷とれて。延滞せば。
つむ。忽ち。踏破り。一人も逃さ。ト。傅僕たゞ。を。ゆく。腹と
立。蒋舒と。どうぞ。開て。守らせ。自ら三千余騎と。うて。真地
暗く。斬て。下る。魏の勢も。真倒。よく。落され。我さだよと。え
あ。り。と。べ。傅僕。勝。の。門。追。く。る。あ。よ。魏の大勢。又一度

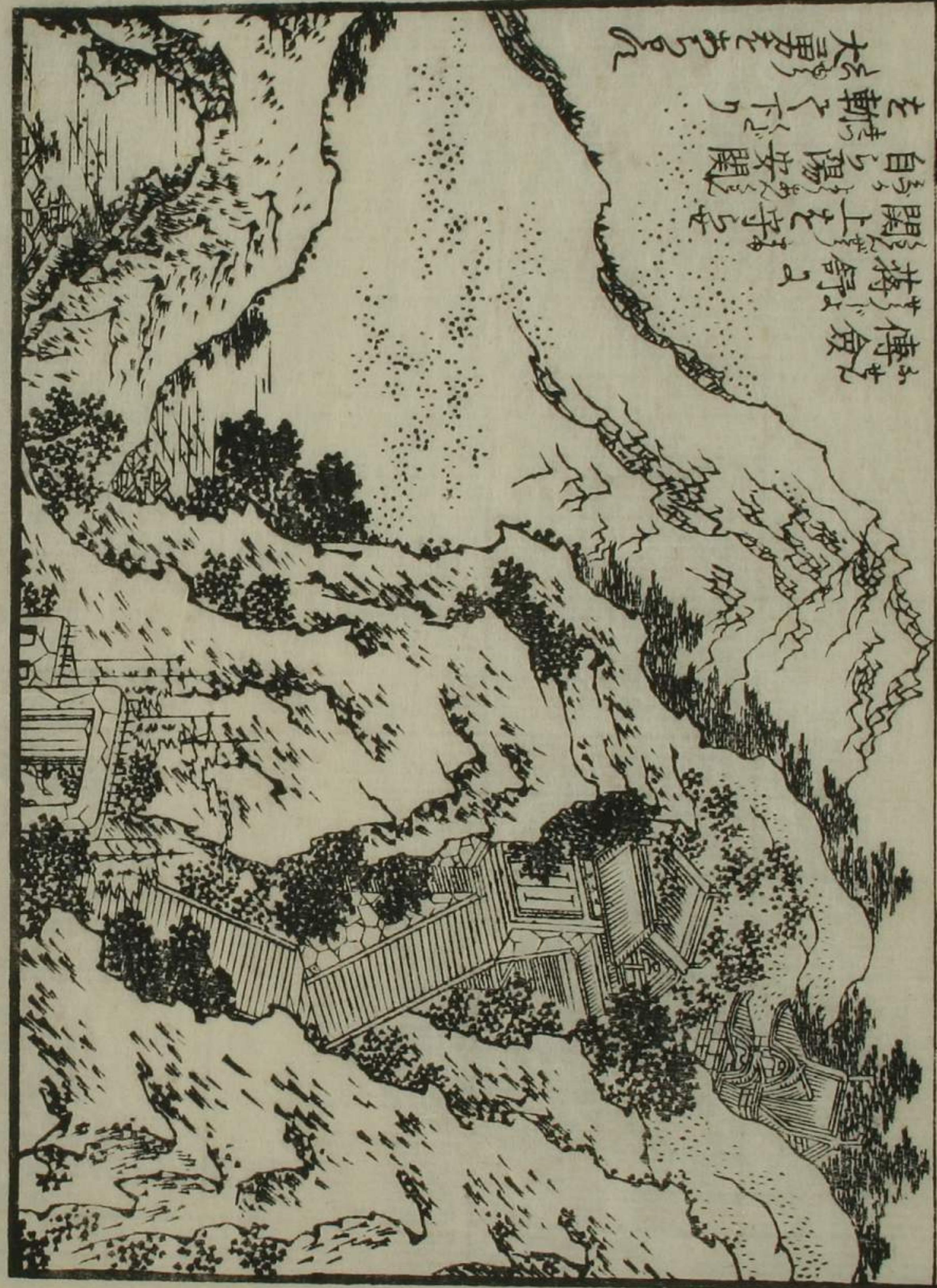
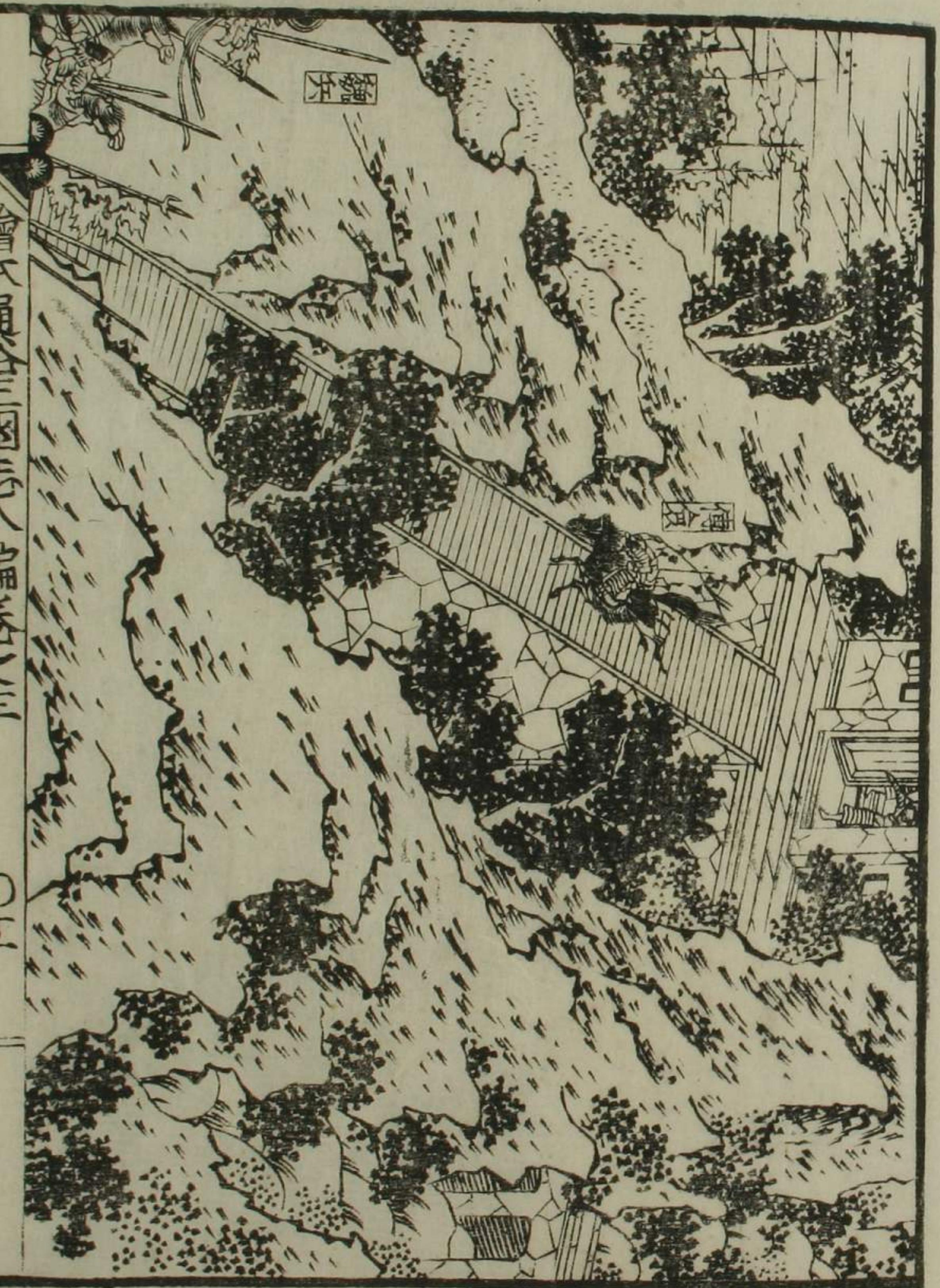
とつ
又取て久ー乞ひべ傳僉す。そひて閑又入んとども。や敵入
くると。もあらぬ旗ども矢倉の上よひろぐり。門の上す。蒋
諭吉とあげて我己よ魏よ降とす。傳僉もす降ととよづ、
りりきべ傳僉勃然とうて大よ怒り。恩を心き義を背乃
賊ちんの面目あらず。天トの人よあらんと。ちゆひぞと罵り進で
閑又入んととどべ太本太石を投下へて面を向べき。よし
き。後す。魏の大勢をた間もあく。恥岡を逃る。路無り
し。今へあとまであらずとて左よ衝右よ突。ちられた呪んで戦
よ三千余騎の勢のあく少く。アリとべ天と仰で心の中よ昭
烈皇帝セ祈念。臣い力尽て射死を願ひ蜀の鬼とある。
敵を滅さんといふて。又馬を拍て敵の村雲立たる真中よ驅

入四方八面を斬て廻る。敵の囲はよく重り。傳僉速よ降
れと。よびクリとべ心怒て精神を抖擞。一伞と。うなぐと戦
ひり。鎗よ突れ矢よ中て被たる甲も朱も。人馬とも
よ疲れ。とれば。さて賊の手よ。うちんようへとて馬よ。飛下
みげくら首を刎て死ス。鍾會もとよよりて陽安関を
城中よ貯たる兵糧武具。山のどくあり。心乃
内大よ喜び。諸軍よ恩賞を与て。あざらく人馬を息けゑ
姜維大戰劍門閑

鍾會を。よ。陽安關を攻と。今夜ハ。の不よ。宿して人馬
の足を休め。明日又と。まんとて諸軍城中よ入て休ミ。且
ば俄よ西南の方よ。咲の吉。天よひいて出来る鍾會丈よ狭

ろたまうよ出てのぞと見るよ敵一人もつゝぞくべんの
内深くめす。諸軍あらひきよ至るまで眠ることゆる。次
の日り敵や寄るとして馬と鞍置鎧と堅て待りどもあ
へてその義もさうりうべ夜よ入て志からく休すとともる。又
己よ三更の比よ至りて又西南の方より。哄の音天地とくべ
を鍾會。色を失ひ人を生してうんせ志むるよ。背て目よさぎ
りのりうべ夜よけて四方よ人と分て伏勢やあると尋一む
よ枝十里が間。ちんの疑へたともちよとやへ鍾會心更
ニ安うづ。徒事よあらぎとて四五日が間逗留モリ。又
毎夜うくのどく驚一ノリとび哄の音のひくと齊く。きくよ
出で。ちの方よきて定や夜明て自ら役百騎を志たゞ西南。

の方よ遠く見巡り。向よ一の山あり。根氣四方よ益ひ
愁雲舞き布て霧山の頂を隠す鍾會馬を回一案内者
セヤ一で山の名を問バ。鄉道守官答て曰く。是もまへちむ
復矣淵か蜀の大將黃忠よ討ひ。定軍山よてト鍾會心
よひまく思ひ敵驚畏とて引回さんとされば何ともあく狂
風吹起り。身の毛もよ立やすよがえて俄よ哄の音地と動し。
枝千騎の兵風よ順にて追蒐る魏の勢。膽て冷しく周章
慌き。馬よ落る。枝をあらば。もく城中よ走入討
たる兵よ点検する。一人一騎も死せば。只手足を損ト面
目と傷へる。ぞうよて。陰雲の内す。多の人馬打て生もや近
付て斬よと思ひ。却て人と殺さば。只一陣の旋風砂よ



允立（モリタ）としてめりと告（ハシメテ）りと鍾會（ツウイ）によくあゆ。降人（カニス）よ坐（シテ）たる蒋舒（サトウ）を召（アマツ）で此辺（コシハ）ニ神の社（サジ）をうんじへ。ちたうと問（シテ）よえたてヤルク。此あくろよ社（サジ）ハ内（ナカ）もちくひが定軍山（セイガンサン）。諸葛（シロカル）孔明（コウミン）の墓（ツツミ）。鍾會（ツウイ）大よどろひて曰く。極（エク）へ詔（オマケ）。葛武侯（シロカツウホウ）の神靈（シラフミツル）。自ら行（ハシメテ）て祭（マツル）らんとて。次の日定軍山（セイガンサン）を行（ハシメテ）て孔明（コウミン）が墓（ツツミ）を拜（ハシメテ）。太牢（タラウ）を備（ハツメテ）て祭（マツル）をもく。祭文（マツルモン）曰く。

維大魏景元四年秋八月鎮西將軍鍾會致祭於故漢亟相諸葛忠武侯之靈曰爲帝王之傳紀（シラフミツル）有盛有衰得將相之扶持（ハサウエテ）以安以危昔先生之隱居（ヒンキヨセム）遯世無聞遇昭烈（ヒョウザクラク）之三顧（ミツク）欲平四夷向白帝之託孤（ヒツコク）繼之以死出祁山而耀武（ヨウブ）神鬼

莫知屯雄師於五丈原（ゴトウヘン）長星忽墜此天意已絕於劉氏（ルイシ）大數難移今後主せん迷於酒色（トキナカシ）朝綱頓廢誠社稷山崩摧（カタマリヤマバサキ）月盈則虧天子命予爲天將（チエンカウ）保民全國先生照耀乎肝膽（カントウ）決不敢怠一謹持陳辭于墓下（マツシテ）願垂聽納三軍肅恐而仰慕聖德（セイドク）無不悲傷望天自心神威於風雲（カクシム）以符天命安清氣於山岳（サンイエ）以順天時鳴呼尚饗食。

鍾會祭了（ハシメテ）即時又風（カキ）。霧散（カミツク）。清風習々細雨濛（モリモリ）。暫（ハラハラ）ありて天氣晴渡（カキモリ）。魏の勢（カツバ）も益（カツバ）を卸（ハラハラ）で墓（ツツミ）を拜（ハシメテ）。尽く城中（シロウドウ）にて心安く休（ヤキモリ）。鍾會（ツウイ）ゑゝ夢（ウム）おふ志（シズ）だあれ其夜の三更の比（ヒ）。よへう又殺氣（サツキ）

凛々として一人綸巾とて立き羽扇を持身は鶴氅を
被て面へ冠玉の下に眉を江山水の秀とめり胸は
天地の機と藏し長八尺をうらうるが神仙の下く飄々
として歩来る鐘會益憂心地起てあひことひく来る人
へ誰ぞと問ふやの人答てヤルク。我今朝將軍の祭と
受たり願へ一言て囁き。漢の運をでよ尽たる天
命の致を不よして力及ばざとへや。兩川の民年
久しく兵革の患あひて肝腦尽く地は塗る。豈
宜とよざらんや將軍國の境又入ばよく手下の勢
法を守りて安々百姓を憚もとてちるれとて袖を拂て去
り。鍾會お門付人とて走とおり。忽々まどうに覺

リ。よく奇異の思とほ曉より起て。謀大将と集め要
のゆども詔て是孔明の神靈うとて即時以下知と傳
て前軍の真先は白旗と立させ保國安民と大文字と
書て行所とみをよ人て殺せものめぐれ必ず首と刎んと
法を守て秋毫をうも犯さざるゝへ漢中の人民其
徳を懷き再拜して坐む。浩然樂城の王。含漢城の蔣
斌も拒ぐて能じて門を開て降人とす。漢中尽く
鍾會より属す。此とを姜維へ當中又在て鄧艾が攻寄る
とき。兵と揃て侍ところよ一番は天水の大守王傾馬とい
だて大音あげ我いえ大兵百万上將千員と揃て二十路と
配て馬と破る姜維匹夫あんぞ速え降らざるとよびうて。

哄の声へ、あげりとべ。姜維大よ怒り。鎗と拈て突てうり戦
ひ三合うちらざる。王領さんぐぐよりて走りとべ。馬の勢い
きとも継ど。二十里あやう追討よ志り。もよ忽然とうて鼓の
音地を動いて。一手の勢打て出たう。姜維もことくろよ指
上たる旗へ隴西の太守牽弘もうし。冷笑にて。此木の奴
原へ我对手よあらば。蹴散して奔よとて。又喫てうけたう
一うべ魏の勢が乱きて走りくると。十里をう追うけ。斬日息
にき居たるふよ忽ち哄の音。天地と崩して。一彪の勢が殺
生を真先の旗へくとくとべ。魏の征西將軍鄧艾ちう。姜維又
入乱きて戦ひ。四方八面と兎立るよ。血へ馬蹄よ蹴立屍も
路よまよりて。封の封の黒烟と立てゆきあひる。蜀

の勢が度の戦ひ。入馬も疲れて。志うも小勢ちうりれば。
鄧艾が三万の生手よとくへり。色よちうたらふよ。
後より王領牽弘が勢をうりて。姜維もよ引退く。とて
早馬一騎後陣より馳来り。甘李の陣屋を。魏の大將楊
欣よ焼けだりと告りとべ。姜維大よどらた。諸大将よ向
て。汝ふしが名の旗を立て。此石で退く。暫鄧艾
が勢を支よ。我よの間よ自ら。甘李の火を救へ。後
陣の一備を。甘李の陣よ至る。火焰天を焦りて残る
不多く。火うちくへ急みを減らとまる。魏の大將楊欣
吹て作て討てうる。姜維會釈もちく蒐りとべ。楊欣もよ
敵を。山路を望んで逃走る。姜維もよ追うけ山よ

攻上らんとぞとべ大木大石雨のとく落しうけり。又引退ろんとぞと先よとひて鄧艾を拒みせらる兵ども皆散こみゆきて逃来る。魏の大勢勝とのにて十方うち耳巻りとび姜維校十騎を引て圍て切抜小山の上より陣せ取て校の勢を侍居たり。時より早馬きたり。魏の大將鍾會大軍を引て陽安関まで攻入。味方尽く破く。傅金へ討れ蒋舒へ降り人ともす。此丈又漢中己より魏より城の王含漢城の蒋斌も門を開て敵を降り大將胡濟へ漢壽城を落して成都より逃去りと告りとび姜維色を失ふ斯てへ叶えどして耳の毛も取れぬを。其夜又疆川の口まで引リ且て向む金城の大守楊欣一軍を引て討てくる。姜維

あやれて蒐たりとくべ楊欣一軍も及ばず。大々乱れて逃走る。又姜維きくよ追しき弓を耳て。三度放ひ。二門も中ざり。しづく腹を立て其弓を折ちて鎗を拈りて突んとぞる。乗たる馬前足を跌き倒立落したり。そこで楊欣引えりて斬てくる。姜維きくよ起あぐり。飛りて一鎗突り。が障て楊欣が馬の脇を。ぐさと突いた。魏の大勢。之を合せて楊欣を救ひ去り。又姜維又馬を打のりて追討。又進む。又後。鄧艾大軍を引てとくまを。姜維前後をえりふると能く。漢中の道より走らんとぞる。雍乃ノ刺史。詔葛緒とりのの大勢よて。ちや。薦平の橋を耳切たりと報を。姜維四角八方を敵を受。進退路あく。て死にとを

喪せりと嘆きノリ。副將甯隨とりひゆの。ヤルクへ此諸葛
縕へ雍歎の刺史よてひ。今そのあゆ止たと。雍歎と耳と
沙汰。ノリ。諸葛緒。おどろひて急。又來救ん。其とぞ引回し
て急。又。陰平の橋を渡り。劍門関を固。ちく。漢中又どう
返。モ。姜維。の義士。うきとて。兵を孔函谷。又打入れ
れ。案の。とく。諸葛緒。大。おどろた。孔函谷。又入る。ふ。
雍歎の虚。ちうと。恥。ん。為。ちう。我預の國を取。と。子。る
あらば。罪を正。り。自ら行。て。救。いと。と。おう。う。士
卒を残して橋を守。らせ。自ら。雍歎を。きて。打向。姜維。之
を。伺。ひ。と。急。又。後陣を。先陣。ヒ。陰平橋へ。殺奔。ちる。橋
を守る。執。力。尽。く。走。り。と。姜維。敵の陣。火を付。て。劍門関

よ。退く。諸葛縕。へ半途。よ。生。て。後。よ。火。の。あ。ぐ。と。見。付。機。を
計。よ。落。き。たり。と。急。よ。恥。て。久。し。る。と。姜。維。橋。を
ぎ。て。己。よ。半。日。よ。及。べ。り。と。い。ひ。き。と。力。を。失。ひ。て。追。が。り。け。已。

鄧艾越嶺襲成都

姜維。よ。げ。う。の。執。か。を。引。て。陰平。の。橋。を。と。だ。行。ひ。よ。向。す。一
手の勢。馬。烟。を。立。て。き。な。り。く。と。近。ち。う。り。て。あ。と。と。え。ふ。よ。
敵。そ。へ。あ。う。で。左。將。軍。張。翼。右。將。軍。廖。化。ち。う。共。よ。喜。び
と。あ。う。て。よ。け。成。都。の。す。う。と。問。よ。張。翼。ヤ。ル。く。近。ご。う。佞。人
黄皓。神。降。の。婆。と。天。子。よ。も。く。や。内。裡。よ。や。り。て。吉。凶。を。問。
との。詞。を。信。ト。て。將。軍。の。表。と。用。ひ。ぞ。是。故。に。漢。中。の。破。ま。し
と。と。怕。り。て。兵。と。起。て。来。る。不。よ。陽。安。關。を。で。鍾。會。よ



とられた。廖化曰く。今四面よ敵を受て。味方の兵糧通ぜず。不如。まうぞひて。劍門を守り。別々深き計をさん。姜維心より決せば。此にて一軍にて漢中をとりえさんと云ふ。魏の勢十方より分れて。推よもろと躁さる。と、廖化曰く。白水の路抜けて。大敵あたひ。速やく。退ひて。劍門関を固め。敵り。勢力を分て。関を取れ。我亦之をき路。姜維も。志たゞ。退ひて。劍門関を入ると。と。俄。鼓。鳴。砲。造て。校万の精兵。勢ひ乗て。斬て。下る。是も敵も。あらず。蜀の輔國將軍董厥。二万余騎。と。魏の勢力と。拒がん。為よ。生たる。今大勢の来るとして。合図の鼓を打て。四方の伏勢。とぐ

く。起。一。却て。味方ち。故門を開て。むし入。天子酒色。又溺。とて。黄皓。魏。佞。と。用。よ。と。語。共。涙。と。あ。ゲ。一。と。姜維。ナ。諸将。哭。よ。我。ホ。生。て。あらん。ぐだ。國を敵。と。耻。と。ば。今。あ。の。要害。と。守。て。氣力。を。娘。ひ。時。と。待。て。戦。と。敵。の。勢。志。だ。い。疲。て。自。ら。乱。る。と。董厥。曰く。お。の。も。よ。て。敵。と。支。な。と。も。成。都。の内。一人。も。志。う。る。と。大。將。ち。若。敵。攻。られ。す。都。へ。と。ち。よ。ち。丸。の。如。碎。く。べ。姜維。曰く。成。都。へ。山。峭。谷。絶。て。敵。い。う。入。と。得。ん。少。い。も。心。よ。く。ざ。ら。び。時。と。下。候。よ。り。告。げ。雍。川。の。刺。史。諸。葛。熾。と。り。よ。す。と。た。又。陰。平。の。橋。と。焼。と。負。腹。と。立。と。の。不。よ。せ。來。ると。報。ド。ル。と。姜。維。

自ら五千余騎を率いて打て出。魏の勢力の真中より
入てさんぐるに操だりる。諸葛紹残少々討きて我と
たよと逃走る。その路より棄たる馬物の具足の多く不
もあくノルとべ蜀の勢力とて恥て甘松又弃たれ。物の
具といふ恥返りぬと喜び皆閑上より入る諸葛緒
がく打成して。さあうぞれ此とた鍾會が劍閣を十里
一だて陣を恥たるよとき。自ら行て敗軍の事を告げ
れ。鍾會怒てナリ。我鄧艾と計を合せ汝より命にて
陰平の橋を守らせ姜維が回る路を塞ぐむる。何や
へよ恥逃れたる。剩へる。又下知もまた。兵とまくを
て多の入馬を失ひ。是いうて行ひ。諸葛緒が曰く姜維

計をりて雍州攻くる。某をと救人として打て出たる。
姜維引久して却て橋をとぎ去り。甘松たの慙を雪がん
たや。手勢を引て推よせ此のとく。敗軍せり。鍾會い
よく怒り。出で首を斬と。下知へば監軍衛瓘い
されて曰く。今諸葛緒罪あり。とつて。此より鄧艾が手
下よ属す大将あり。然ると將軍ゆ。殺り。鄧艾
うち。怒てちからへ不和の基と。うち。暫く令下を
扶て鄧艾を待て。鍾會曰く。と天子の勅を受。司
馬晋公の命を領し。大軍をもとて蜀を伐たと。鄧艾も
りとも。罪めらば誅を。何ぞ不和の基といふとある。
うち。の大將尽く集めて再三諫。終て鍾會をの令

と扶て諸葛紹と檻車又囚へ洛陽又送^上せて司馬昭が手^テ渡^ス。雍州の勢を留て己^ガ手下^メを用ひル。鄧艾^のよ^リ傳聞^{つえま}て大^き怒^り。我鍾會と官職^と高下^あき、^とさら我^へ。四^の疆^と守^メて國^の為^メ功勞^を積^ム。鍾會^いうち^れ漫^々傲^て。我手^{の大}將^を四討^一。云^リ嫡子鄧忠練^てヤリ^る。聖人^も小^さ不^忍。則^と不^和。大謀^とり。父^い父^あ功^と建^タ。若^{一旦}鍾會^乱。大謀^とり。父^い父^あ功^と誤^ら。鄧艾少^ゆも汝^がの^よ不^理。當^きよりと^りよ^て上^の色^と現^さべ^と之^ど。心底^よ深^く恨^を含^み。自^ら枝^十騎^を率^{いて}鍾會^が陣^と行^く。鍾會^かと^そ支^て自^ら枝^百騎^の猛將^と從^つて。

坐む^シ之^ノと^ビ。鄧艾^心の内^をあ^く。ど喜^びを^共。又^坐定^て。賀^{して}ヤリ^る。將軍^を漢中^と攻^瓦り。蜀^の勢^尺く^膳と^冷。是^まと^シ朝廷^の幸^ち。速^く計^を定^め。劍^関を^破り。鍾會^が曰^く。今^剣關^を破^る。如何^か計^を用^ひ。鄧艾^{うた}く辭^りて。曰^く某^不才^ふ。争^う計^をを^あらん。鍾會^再三^問。曰^く某^愚意^を。而^て料^す。一手^の勢^を率^{いて}。陰平^の小路^を廻^り。漢中^の德^{陽亭}を^上て。却^て劍^關を^あ。之^ノ閑^す西^の方^百里^斗。奇^兵を^用ひ。直^に成^都を^攻入^る。姜維^をもつて劍^關を^棄て來^る。將軍^をの^と虚^のにて進^む。必^全く功^をあさん。鍾會^大に喜^{んで}曰^く。此^計。我意^叶。將軍

を。成都をひそひり。某との不よて合図を待んとて酒宴
枝刺玉爻で鄧艾別て圓り。バ鍾會手下の大將と集て曰く。
人まえ鄧艾と計多きりのべと云ふ。今日ともと見る。唐
才よして用ゆる。足を諸將との故と問。鍾會が曰く。陰平
の路。嶺高く岩峭て鳥も翔りがたき。安んぞ兵を進
ること。若敵の勢百余人人にて要害を守らば。彼亦とぐ
く谷の内。食死せん。我へ法よりて正道より進ひ蜀を恥
んと掌よりとて。陵々。雲梯。鉄炮の架を作らせ。日夜
て分たを。劍閣を攻たり。鄧艾の門外より馬をのりて。
本陣又回り。諸大將も。問て曰く。今日鍾會。對面
ゆひて。ひうち。計うひ。鄧艾が曰く。と。實のこゝで。以て告

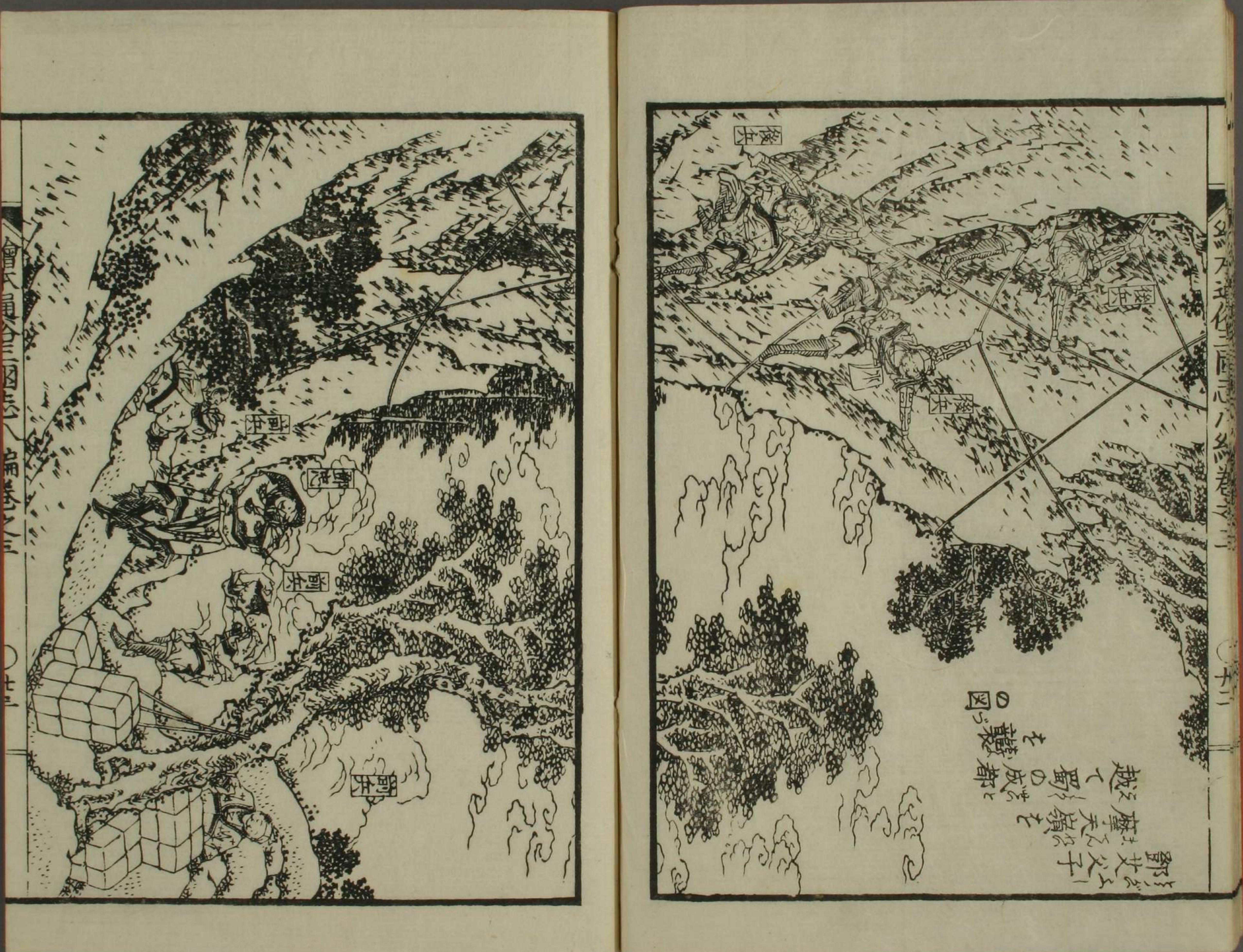
れバ鍾會。と。侮て。芥の。と。く。彼漢中と恥て。莫大の
功ありと。我々。水。中。よ。て。姜維と。圓。し。へ。彼。爭。漢中と
恥。と。ひ。ん。我。わ。一。成。都。と。恥。べ。其。功。を。も。勝。る。と
て。其。夜。陣。屋。と。收。ち。て。陰。平。の。小。路。と。ま。る。劍。閣。と。離。る。
と。七。百。里。よ。一。て。陣。と。ど。鍾。會。と。さ。き。を。や。て。冷。笑。ひ。鄧。艾。を
愚。あ。う。と。と。鄧。艾。へ。計。と。定。て。書。簡。と。調。へ。雒。陽。へ。人。と。上
せて。司。馬。昭。又。注。進。を。其。書。又。曰。く。

七見蜀寇失。其漢中還守。劍閣宜遂乘之。今遣精
兵從陝平由斜徑經漢德陽亭漁涪出劍閣西百
里去成都二百余里。奇兵衝其心腹劍閣之守。必
還赴涪。則會方輒而進。若劍閣之兵不還。則應涪

城之兵寡矣。軍志有之曰：攻其無備，出其不意。今掩其空虛，破之必矣。謹此上聞，伏布昭察。

鄧艾書間，上せて後、尽く手下の大將と集てヤル。我今虛の内で成都とおもひ取んとおもひを。汝ホ志と同一。國家の為忠と致まべ。其名万世と傳て恩賞へ子孫の家と照そべ一面々よく心と固めて。ふうきの大功と立よと云ふとも。諸軍も答へて曰く願ハ將軍の命と從ひ。鄧艾大喜び先鋒をもす。鄧忠も屈強の兵五千人と与て甲冑とも被せ。斧と槍と付。長き差縄と多く用意して其丈一丈能手を結付たり。是は岩石あるども登がれき木の枝岩の棱

引け登らん為の支度あり。十月又陰平と立て。百里づて行ひ。三千の勢と残して陣屋を作て守らし。顛崖峻谷鳥もくりうがたき不。凡そ二十日あまり。七百里超えり。あらも人の住ぬ深山あれば虎狼の号音耳も盈て松樹の風敵の喚の色と誤る已。又七百里が間。才十日も。陣屋を作て。兵を残し置なむべ。今へるがる。二千余騎よりて人馬ごとぐく疲きたり。進で又一の嶺あり。摩天嶺と名く。殊さら高峻て一片の白雲腰てさぐり。岩石屏風のとく切立て。人馬一足も登とてゐ。鄧艾馬より下て其辺をえり。鄧忠て始とて路を開く。二千の勢一筋に集て陣屋へり。且ば如何あり故ぞと問ふ。鄧忠答へてやる。此嶺の西



の方へ石壁天又嶺て路を閑べき術は。今まで千辛萬苦を経て此不までも來しをくも力疲れて尽く此不又死せんと哀む。鄧艾が曰く我たゞ又七百里の難所をきえて二万八千の兵を道に残置なまべ只二千の勢を餘せ。若き嶺とあるとたへ麓へ乃ち蜀の江油城。たゞひ死をとゆ恨は。元より大將と士卒の情へ兄弟又異とは汝お志を墜てば力を尽して此嶺をあえら必至。希代乃功激きて命と弃んと勇りて。鄧艾大喜び試み馬どもと追下を。大半急か落着て身ぶるひと立たぬ。拵へ心安一とて自ら毛氈をもて身を包み一番又まろび落れ。

諸の大将も続て大に諸軍毛氈を持ざるゆ件乃差繩を木の枝又着て人々の腰をくり魚を釣上たらびとくみて。兎角にて澆下一人も誤たど己又摩天嶺を越けきへ此みてまづらく息を休め馬物の具と調て進行之路の側の大石を立て碑の文より上又亟相諸葛孔明親題と大文字又ちり付たり。又近寄て之をそんる。其銘曰く。二火初真。有人越此。二士争衡。

不久自死

鄧艾もとて號で打驚き其石を再挙てヤリ。又孔明の眞又神人。我同世又生きて此人又事ざると恨む惜うると感嘆して山の傍又孔明の廟を立させ祭をあえて進

行^{ゆく}向^{むか}え大^{おほ}き陣屋^{ぢんや}あり。是^{これ}ハ孔明^{こうめい}世^よの在^しと。險阻^{あぶら}あれ
ども此所^こセ油^あ断^{だん}せ。常^{つね}に千余騎^よの兵^ひを置^{おき}。日夜^よ用心^{あつ}
たりしが近比^{ちかび}後主^{ごしゆ}劉禪^{りゅうぜん}。その法^{ほう}を廢^{あきらめ}て此の守^{まつ}を止^{とど}めたり
告^くるものあり。且^よべ鄧艾^{とうい}嗟嘆^{あわがふ}して休^{やす}む。心^{こころ}の内^{うち}敬^{そろ}馬^ま怕^{ひる}く。諸^{しよ}
軍^{ぐん}を集^{あつ}てやらん。我^{われら}ホ^の所^{まで}來^まし。ども一足^{ひと}も回^{まわ}る全^{ぜん}
路^じは。前^{まへ}乃^なち江油城^{こうゆうじやう}。早く攻^{せらざつ}て兵^ひ、糧^{りょう}を^を使^{つか}ひ。一
命^{めい}を^を扶^{さす}れと下^げ知^し。一千余騎^よの兵^ひ。ども死^しを^を輕^軽々^かて
江油城^{こうゆうじやう}を^を攻^{せらざつ}る。

繪本通俗三國志八篇卷之三終

